

[成果情報名] 水稻品種「きぬむすめ」の奨励品種採用

[要約] 水稻品種「きぬむすめ」は、成熟期が「日本晴」より3日程度遅く、「ヒノヒカリ」より6日程度早い中生品種である。精玄米収量と外観品質は「日本晴」、「ヒノヒカリ」より優れており、食味評価は「コシヒカリ」並の極良食味である。

[キーワード] イネ、きぬむすめ、岡山県、奨励品種

[担当] 作物・経営研究室

[代表連絡先] 電話 086-955-0275

[研究所名] 岡山県農林水産総合センター農業研究所

[分類] 普及成果情報

[背景・ねらい]

岡山県中北部では、「コシヒカリ」と「ヒノヒカリ」の中間熟期の有望な中生品種がないため作付けが早生品種に集中しており、不適地での栽培による品質低下がみられている。また、県中部においては「ヒノヒカリ」では成熟期がやや遅いため、9月下旬から10月初旬に成熟する中生品種が要望されている。そこで、県中北部の早生品種や県中部の「ヒノヒカリ」に代わる、多収で高品質かつ食味の優れた中生品種を奨励品種として選定する。

[成果の内容・特徴]

水稻品種「きぬむすめ」の特徴は以下のとおりである。

1. 「日本晴」より出穂期が2～4日、成熟期が1～4日遅く、「ヒノヒカリ」より出穂期が4日、成熟期が6～8日早い中生品種である。稈長は「日本晴」よりやや長く「ヒノヒカリ」と同程度、耐倒伏性は「日本晴」、「ヒノヒカリ」と同程度の「強」である（表1、2）。
2. 「日本晴」、「ヒノヒカリ」と比較して、穂数は同等～やや少なく、千粒重はやや軽い。精玄米収量はおおむね優っている（表1、2）。
3. 「日本晴」、「ヒノヒカリ」より外観品質は優れており、食味は「コシヒカリ」並の極良食味である（表1）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：岡山県中北部の水稻生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：4,000ha（2018年目標）
3. 2014年10月15日に岡山県の奨励品種に採用された。
4. 葉もち、穂もちとも圃場抵抗性は「中」である。
5. 白葉枯病抵抗性は「やや弱」であり、常発地での栽培は避ける。
6. 縞葉枯病には「罹病性」であるので、適期防除に努める。
7. 登熟期間が高温になると品質が低下しやすいので、県南部での栽培は避ける。

[具体的データ]

表1 水稲奨励品種決定基本調査結果(生育・収量・品質)

実施 場所	施肥 水準	品種名	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 ^z (0-5)	病害の ^y 多少		精玄 ^x 米重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒重 (g)	外観 ^w 品質 (1-9)	食味 ^v 総合 評価
									葉い もち	穂い もち					
赤 磐 市	標肥	きぬむすめ	8.24	10.05	83	18.6	288	0.0	0.8	0.4	54.9	107	22.2	4.6	0.02
		日本晴	8.20	10.02	79	20.5	305	0.3	0.6	0.4	51.1	100	23.1	6.0	-1.07
		ヒビカリ(参考)	8.28	10.11	83	19.0	322	0.1	0.7	0.5	53.0	104	22.7	5.7	0.06
	多肥	きぬむすめ	8.23	10.03	84	18.7	292	0.0	0.8	0.4	59.2	109	22.5	4.0	-
		日本晴	8.20	10.01	80	20.8	308	0.0	0.4	0.6	54.8	100	23.3	6.1	-
津 山 市	標肥	きぬむすめ	8.19	9.27	81	17.4	332	0.3	0.2	0.0	50.4	105	22.3	2.8	-
		日本晴	8.16	9.24	81	18.9	322	0.4	0.0	0.1	48.2	100	23.6	4.8	-
	多肥	きぬむすめ	8.19	9.28	78	17.4	340	0.0	0.3	0.0	52.5	102	22.5	4.1	-
		日本晴	8.17	9.27	80	19.2	337	0.1	0.0	0.1	51.5	100	23.7	5.2	-

注) 赤磐市(農業研究所)は2003年から2012年の平均値
 移植時期は6月19日から22日(平均6月21日)、栽植密度18.3株/m²の3本植え
 標肥は窒素成分で10a当たり9kg、多肥は11.3kgを施用
 津山市(旧農業試験場北部支場)の標肥は2003年から2009年、多肥は2006年から2009年の平均値
 移植時期は5月26日から6月4日(平均5月31日)、栽植密度22.2株/m²の3本植え
 標肥は窒素成分で10a当たり5kgから9kg、多肥は6.3kgから10.8kgを施用

- ^z 倒伏は0(無倒伏)～5(全倒伏)の6段階評価
- ^y 病害は0(無)～5(甚)の6段階評価
- ^x 精玄米重は1.8mm以上(水分15%換算)
- ^w 外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価
- ^v 食味評価は基準品種をコシヒカリとした3～3の7段階の官能評価で数値が大きいほど良好

表2 水稲奨励品種決定現地調査結果(生育・収量・品質)

品種名	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 ^z (0-5)	病害の ^y 多少		精玄 ^x 米重 (kg/a)	同左 比率 (%)	千粒重 (g)	外観 ^w 品質 (1-9)	
							葉い もち	穂い もち					
岡山市	きぬむすめ	8.24	10.01	87	18.1	342	0.1	0.4	0.0	54.1	99	22.1	4.0
	日本晴	8.22	9.28	85	20.3	369	0.2	0.1	0.0	55.1	100	23.1	5.3
備前市	きぬむすめ	8.22	9.26	85	19.2	332	0.0	0.5	0.0	53.6	109	21.5	5.5
	日本晴	8.19	9.24	79	19.6	327	0.0	0.5	0.0	49.1	100	23.2	8.0
倉敷市	きぬむすめ	8.23	9.30	90	18.4	325	0.0	0.0	0.0	57.2	101	22.1	4.7
	日本晴	8.20	9.27	94	19.6	319	0.5	0.0	0.0	55.1	100	23.2	8.5
新見市	きぬむすめ	8.18	9.26	81	17.4	342	0.0	0.2	0.0	56.8	116	22.5	5.0
	日本晴	8.14	9.22	79	18.4	344	0.0	0.2	0.0	48.5	100	24.2	5.6
津山市	きぬむすめ	8.22	9.29	79	17.0	326	0.0	0.3	0.2	48.4	93	21.6	3.8
	日本晴	8.20	9.26	78	19.2	330	0.0	0.0	0.0	51.4	100	23.1	3.7

注) 調査期間は、岡山市が2006年から2012年、備前市が2006年から2007年、倉敷市が2006年から2008年、
 新見市が2007年から2012年、津山市が2006年から2011年
 各現地圃場の標高は、岡山市が2～8m、備前市が20m、倉敷市が2m、新見市が160m～330m、
 津山市が130m

- ^z 倒伏は0(無倒伏)～5(全倒伏)の6段階評価
- ^y 病害は0(無)～5(甚)の6段階評価
- ^x 精玄米重は1.8mm以上
- ^w 外観品質は1(上上)～9(下下)の9段階評価

(妹尾知憲)

[その他]

研究課題名：主要農作物品種試験(水稲)

予算区分：県単

研究期間：2003～2012年度

研究担当者：妹尾知憲、大久保和男、中島映信、松本一信、赤澤昌弘